

道なき道の歩き方 - 女性学をつくる -

社会学者、東京大学名誉教授、
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク顧問理事、
上野千鶴子基金代表理事

上野千鶴子

Chizuko Ueno



名古屋大学レクチャー

2026.12.19(土) 14:00-16:40

[名古屋大学 豊田講堂]

ジェンダー研究はフェミニズムから生まれました。20世紀に世界を動かした思想はまちがいなくフェミニズムです。本講演では、ジェンダー研究が何を切り拓いてきたのか、何と闘い続けているのか、何をめざしているのか、をお話したいと思います。



詳細・参加申込みは
WEBサイトを
ご確認ください

名古屋大学レクチャー

2026.12.19(土) 14:00-16:40

[名古屋大学 豊田講堂]

道なき道の歩き方 - 女性学をつくる -

半世紀前、わたしが学生だった頃には、女性学は影もかたちもありませんでした。そこにアメリカに Women's Studies というものがあると日本に持ち込んだのは、社会学者の井上輝子さんです。彼女はそれを女性学と名付け、「女の、女による、女のための学問」と定義しましたが、この定義は物議を醸しました。女性学は運動でした。女性学は大学の外で民間学として育ち、やがて大学の中へ入っていきました。わたしは京都で生まれた日本女性学研究会の会員となり、日本初の女性学のジャーナルを発行し、書き手と読み手を育て、行商をして広めました。その後「男性学」が生まれ、ジェンダーという概念が普及してから、女性学はジェンダー研究に統合されるようになりました。人間の社会でジェンダーに関与しない領域はありませんから、ジェンダー研究に扱えない領域はありません。

ジェンダー研究はフェミニズムから生まれました。20世紀に世界を動かした思想はまちがいなくフェミニズムです。本講演では、ジェンダー研究が何を切り拓いてきたのか、何と闘い続けているのか、何をめざしているのか、をお話したいと思います。

社会学者、東京大学名誉教授、
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク顧問理事、
上野千鶴子基金代表理事

上野千鶴子



1948年富山県生まれ、京都大学大学院修了、社会学博士。平安女学院短期大学(1979-1989)、京都精華大学(1989-93)を経て東京大学文学部および同大学院人文社会系研究科教授(1993-2011)。その後、立命館大学特別招聘教授(2012-16)。他にシカゴ大学客員研究員、ブリティッシュコロンビア大学客員教授、ボン大学客員教授、メキシコ大学員大学客員教授、コロンビア大学バーナードカレッジ客員教授等を歴任。元日本学術会議会員。アメリカ科学芸術アカデミー会員。1984年サントリー学芸賞、2011年朝日賞、2019年フィンランド政府からヒューマン賞受賞。2025年TIME誌「世界で最も影響力のある100人」に選出、2026年スミスカレッジから名誉学位授与。

女性学・ジェンダー研究のパイオニア、高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。『家父長制と資本制』『女遊び』『当事者主権』(中西正司と共著)、『ケアの社会学』『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』、『おひとりさまの最期』、『在宅ひとり死のススメ』『女の子はどう生きるか、教えて!上野先生』『フェミニズムがひらいた道』『こんな世の中に誰がした』『挑戦するフェミニズム』(江原由美子との共編著)、『アンチ・アンチエイジングの思想 ボーヴォワール「老い」を読む』等多数。英訳に以下がある。

Chizuko Ueno, Beverley Yamamoto transl., *Nationalism and Gender* (Melbourne: Trans Pacific Press, 2004)

Chizuko Ueno, *The Modern Family in Japan: Its Rise and Fall* (Melbourne: Trans Pacific Press, 2009)